

胃部X線(バリウム)検査を受けられる方へ

～裏面も検査前に必ずお読みになり、別紙両面「胃部X線(バリウム)検査前の確認票」及び「胃検診受診票」の太枠内を黒ペンでご記入下さい～

I. 胃部X線(バリウム)検査について

胃部X線(バリウム)検査は、バリウム(造影剤)と発泡剤(炭酸顆粒)を飲んで、X線(レントゲン)を撮影することで、胃・十二指腸の病気を発見するために行います。

II. 胃部X線(バリウム)検査前の注意事項

	検査前日	検査当日(朝)		検査直前
タバコ		* 起床後から検査終了までは 禁煙 して下さい。:喫煙により胃液が増え検査精度が低下します。		* 禁煙
食事 飲水	<ul style="list-style-type: none"> * 食事は午後9時までに、消化の良いものを食べて下さい。 * アルコール類は控えて下さい。 * 午後9時以降は、食べ物(ガム・飴等を含む)、水以外の飲み物(お茶・コーヒー・炭酸水等含む)は、摂らないで下さい。 * <u>水は飲んでもかまいません。</u> 	<h3 style="color: red;">絶 飲 食</h3>		<ul style="list-style-type: none"> * 専用の検査着に着替えます。 * 診断の妨げになる物は、外して下さい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ボタンやホック、金具等のついている衣類や下着 ・コルセット ・時計 ・アクセサリー(膺ピアス・ネックレス等)
薬	いつも通り服薬して下さい。	○ 服薬してもよい薬	× 服薬(使用)してはいけない薬	* 初めて胃部X線(バリウム)検査を受けられる方には別紙説明書を用意していますのでお申し出下さい。
		高血圧の薬・心臓病の薬・血液サラサラの薬 精神安定の薬・喘息の薬・喘息吸入薬の使用 <u>てんかん・けいれん止めの薬</u> :発作予防のため :主治医より、朝服薬指示のある方は、 <u>検査2時間前までに</u> 、コップ1杯程度の水で 必ず 服薬して下さい。	胃薬(胃粘膜保護薬) :胃粘膜にバリウムが付着しづらい 糖尿病の薬・インスリン注射の使用 心臓または腎臓病等の治療や減量目的で血糖を下げる作用のある薬・注射の使用 :食事をとらない場合、低血糖の可能性があるため服薬(使用)不可 :どうしても、朝服薬(使用)しなければならない方は、主治医のもとでの胃検診をお勧めします。	
		* その他の薬は検査終了後に服薬して下さい。薬の服薬等について不安のある方は、主治医へ確認して下さい。		

III. 胃部X線(バリウム)検査後の注意事項(重要) :下剤と一緒に渡す「胃部X線(バリウム)検査終了後の下剤と水分摂取の注意事項」を必ずお読み下さい。

1. 下剤と水分補給について	<ul style="list-style-type: none"> ・検査後は必ず下剤を服用し、多めの水分(普段よりも多く)を摂取して下さい。 ・下剤と水分摂取で、すみやかにバリウムを排出することが大切です。 ★授乳中の方は、下剤をもらう際にお申し出下さい。専用の下剤を用意しています。
2. 検査後(当日)の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコールは控えてください。脱水状態になりやすく、バリウムが出づらくなります。
3. こんな症状があれば、すぐに医療機関を受診	<ul style="list-style-type: none"> ・バリウムの水分は大腸で吸収されやすく、便秘になるとバリウムが出づらくなるため、まれに腹膜炎や腸閉塞、消化管穿孔等の重篤な偶発症を引き起こし、手術や人工肛門が必要となるおそれがあります。 ・腹痛や気分が悪い等の症状、検査後1日を経過しても白っぽい便が出ない等の症状がある方は、夜間や休日でもすみやかに救急病院を受診して下さい。 ※受診の際、診察医師へは「胃のバリウム検査後」であることを伝えて下さい。
4. 検査後(数日間)の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・検査後数日は、バリウムが胃や腸の粘膜に残りやすいため、便秘にならないよう気を付けて下さい。

Ⅳ. 胃部X線(バリウム)検査を受診できない方

～裏面も検査前に必ずお読みになり、下記に該当する項目がない場合は別紙両面の太枠内を黒ペンでご記入下さい～

※ **安全確保のため、下記項目に該当する方は原則、胃部X線(バリウム)検査を受けられません。予めご確認下さい。**

消化管の病気で手術を受けたことがある方、治療中の方、胃の痛みや不快感等の症状を有する方は、医療機関で胃内視鏡(胃カメラ)検査を受けることをお勧めします。

1. 体重が130kg以上(バス検診120kg以上) がある *検査台の耐荷重制限あり
2. 検査技師の指示を理解し、検査に必要な動作をスムーズに行うことができない(検査台に1人で立つ、手すりにつかまって体を支える、横になって体を6回転させるなど)
3. バリウムの誤嚥(ごえん)経験がある、または飲食時にむせたり、咳き込むことがよくある
4. 人工透析をしている(その予定がある)、または腎臓病や心臓病等により、医師から水分制限を指示されている
5. 在宅酸素療法中、脳疾患のためにシャント挿入中、心臓にペースメーカーやICD挿入中である
6. ★インスリンポンプや持続血糖測定器(リブレ等)を装着している
:放射線や磁気の影響を受ける可能性があるため、ご自身で取り外しできれば検査可
7. 3ヶ月以内に便に血(鮮血・黒色等)や粘液が混ざることがあった *胃潰瘍・大腸憩室・大腸腫瘍の可能性
:拭き取り時ペーパーに少量付着するのみは除く
8. 小腸・大腸憩室炎(憩室がある)、イレウスや腸閉塞、腸捻転、腹膜炎、虚血性大腸炎、クローン病、潰瘍性大腸炎、小腸・大腸がん等、腸の病気や肝硬変を指摘されたことがある
9. 食道・胃・十二指腸・小腸・大腸(結腸・直腸)等の消化管の開腹手術や腹腔鏡下手術、ストーマ造設術、何らかの治療を受けたことがある :虫垂炎・ソケイヘルニア手術は除く
10. 脾臓・肝臓・胆のう・膀胱・その他、腹部の手術の際に、胃や腸の切除術を受けたことがある
11. ★3ヶ月以内に食道・胃・大腸ポリープの内視鏡切除術を受けた、または切除して3ヶ月経過後も定期受診を勧められている :ただし主治医の許可があれば検査可
12. ★1年以内に何らかの手術(眼・耳・鼻等は除く)を受けた :ただし主治医の許可があれば検査可
13. ★1年以内に心臓疾患や脳血管疾患等を指摘された :ただし主治医の許可があれば検査可
14. ★腹部・胸部・脳等の動脈瘤や動脈解離、脳動静脈奇形を指摘されたこと(手術後も含む)がある
:ただし主治医の許可があれば検査可 :脳動脈瘤は定期検査し大きさが5mm未満の場合は検査可
15. ★現在、がんの治療中または指摘後1年以内である :ただし主治医の許可があれば検査可
※11.～15.に該当する場合、胃バリウム検査を希望される方は、事前に主治医へ確認して下さい。
16. 下剤・発泡剤・バリウムでアレルギー症状(かゆみ・息苦しさ・ショック症状等)が出た、気分不良になった、バリウム検査後の便が出づらかったことがある(検査後24時間以内に便が出なかった・何らかの処置を受けた等)
17. 普段、便通異常(高度の便秘や下痢)がある
 - ① 3日以上便がでないことがよくある *バリウム停留による腸閉塞・消化管穿孔の可能性
 - ② 検査当日を含め便秘4日目である *バリウム停留による腸閉塞・消化管穿孔の可能性
 - ③ 便秘の時に腹痛や吐き気等がある *腸狭窄や腸閉塞の可能性
 - ④ 3ヶ月以内に急に下痢や便秘がちになった *大腸の部分的閉塞や大腸腫瘍の可能性
 - ⑤ 下剤を飲んでも便が出づらい(普段から多量の下剤を服用している)
18. 検査前の血圧が高い(血圧160/100mmHg以上)
19. 検査当日、体調不良や下記症状等がある、または最近、体重減少がある
発熱37.5度以上・腹痛・下痢・めまい・ひどい頭痛
ひどい腰痛・ひどい関節痛・喘息症状・アレルギー症状
20. 検査当日の朝、飲食した :検査2時間前までにコップ1杯程度の水のみ飲水可
21. 主治医より、てんかん・けいれん止めの薬を、朝服薬するよう指示されているが、検査当日の朝、飲んでこなかった *けいれん発作の可能性
22. 検査当日の朝、胃薬(胃粘膜保護薬)を飲んだ *胃粘膜にバリウムが付着しづらく検査精度が低下
23. 検査当日の朝、糖尿病の薬を飲んだ、インスリン注射を使用した *低血糖の可能性(心臓または腎臓病等の治療や減量目的で血糖を下げる作用のある薬・注射の使用を含む)
24. 検査当日の朝、タバコを吸った *喫煙により胃液が増え検査精度が低下
25. 現在、妊娠中または妊娠の可能性がある *胎児への安全性を考慮して不可
産後2ヶ月以内または帝王切開後1年以内である
26. 問診・診察・検査室等にて検査不可や検査困難と判断された場合